

バリデーションについて(認知症高齢者の支援方法)

バリデーションとは

- ナオミ・フェイル(バリデーショントレーニング協会専務理事)が発案した認知症高齢者とのコミュニケーション技法。
- バリデーションとは、アルツハイマー型認知症および類似の認知症の高齢者とコミュニケーションを行うための方法の一つ。
- 認知症の高齢者に対して、尊敬と共感をもって関わることを基本とし、お年寄りの尊厳を回復し、引きこもりに陥らないように援助するコミュニケーション法。
- 認知症高齢者の奮闘を受け入れることであり、言語的、非言語的テクニックを用いて利用する方法論

超なければならないハードル(課題)を不幸にも何らかの原因のためクリアできなければ、人生の各ステージにおいて、そのハードル(課題)を死を迎えるまでに解決したいと奮闘している姿



認知症高齢者の様々な行動、症状として現れてくる

認知症高齢者のコミュニケーションを通して感情レベルに訴える方法論

認知レベル 感情レベル

認知症における精神的ケアの重要性

- 話の内容はほとんど残らない
- 言葉ではなく感情だけが残る

私たちがより感情の世界に行き、認知の世界に生きることが少なくなってきているので、記憶に残るのはあなたが何を言っているかではなく、**どんなふうに話したか**ということだ
私たちは**感情は分かるが話の筋は分からない**

あなたの微笑み、あなたの笑い声、私たちの触れ合うあなたの手が私たちに通じるのだ。

共感することが私たちをいやしてくれる。ただ、あるがままの私たちを愛してほしい。

訪ねてきて何を言っているかわからないときはただ、そばにいてほしい

私たちは言葉よりも、あなたがそばにいてくれること、私たちと思いを分かち合ってくれることが必要なのだ。

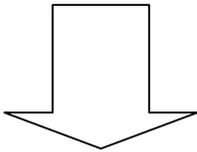
私たちの感情と精神はまだここにある。あなたが私たちを見つけてくれさえすれば

バリデーシヨンの原意

確認する **強化する**

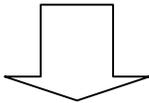
(生きてきた意味・価値を確認する)

周辺症状 (見当識障害、いわゆる問題行動)



「若いころ、人生の中で成し遂げておかなければならない大切な課題を十分にやり終えることができなかつた為に解決に向けての奮闘である。」

- ・自分の価値を満たしたい。
- ・遣り残した宿題をかたづけたい。



その奮闘を受け入れることが大切

エリック、エリクソンのライフリスク論

期	解決すべき課題	見当識障害にみられる振る舞い (左欄の 課題が解決されない場合)
乳児期	基本的信頼 v s 基本的な不信	非難、絶望的、無力、無益、新しいことを全て恐れ、感情を呑み込む
幼児期	自律性 v s 恥、疑い	良いこのように振舞い、「NO」と言わない。リスクを恐れている、自己不信。コントロールを失うことを恐れる。思いを胸に秘める。
遊戯期	主導権(自主性) v s 罪悪感	新しいことに挑戦しない。憂鬱、罪悪感、いつも泣いている、苦しんでいる。
学齢期	親密(親しくなること) v s 孤立	自分の殻に引きこもり、人を遠ざける 依存する